

中国 G3キウイの栽培面積拡大がゼスプリの立場を圧迫

[FreshPlaza](#) 2025年11月18日

ゼスプリは、権利が保護されたG3サンゴールド品種をめぐる中国での最近の裁判に勝訴した一方で、中国市場に流入する大量の違法栽培果実への対応策を検討する5カ年の研究を完了した。

2021年にニュージーランドで行われた生産者投票では、四川省の生産者と協力し、彼らの果実をニュージーランド産と並行してゼスプリブランドで販売する共同販売試験の提案が否決された。懸念されたのは、知的財産の喪失と中国産果実の品質に対する認識であった。

それ以来、中国での栽培面積は拡大を続けている。推計によると、G3の栽培面積は中国全土で最大約7,500ヘクタールに達し、そのうち約5千ヘクタールが四川省にある。これはニュージーランドのG3総栽培面積に近く、推定生産量の4,100万箱はゼスプリの中国向けG3販売量と同程度である。中国産供給量の増大は、中国産果実が市場に出回る時期のゼスプリの市場での地位に影響を及ぼしている。

人口9,400万の四川省はキウイフルーツの主要産地であり、約5万ヘクタールの果樹園を有する。約3万ヘクタールはレッド品種で、残りはG3や中国品種の金艶(金艶)^{ジンイェン}等のゴールド系である。

ゼスプリの監視作業は、不正に持ち込まれたG3苗木による果樹園の開発を追跡し、協力関係を再検討する場合に品質が維持できるかどうかを評価してきた。プロジェクト初期には、ゼスプリは約1千ヘクタールでG3を栽培する20の生産者を試験販売の参加候補として特定した。

最近の司法判断はゼスプリの知的財産の保護を支持するものであるが、栽培面積の拡大は今後も発生し続ける法的執行コストへの懸念を生じさせている。

四川省を訪れた「Farmers Weekly」(英国の農業専門誌)によると、地元生産者は裁判の結果を承知しつつも、栽培の停止は予想していない。成都キウイフルーツ生産者協会^{チンキン}の会長であり、新設された非認可G3果実の梱包施設の責任者であるイェン・ジーチャン氏は、生産者はゼスプリの生産方法を研究しているとして、「我々はゼスプリを到達すべき高い目標と見ており、中国の中間層はゼスプリの果実を購入したいと考えている。中国産果実の品質がゼスプリほど高くないことはわかっているが、それでも比較的良好だ」と語った。

果実栽培の拡大を認める政府方針は、ゴールド品種及びレッド品種への関心をさらに高めている。ヤン氏はゼスプリのルビーレッドが市場に参入すれば若年層の消費者の需要を増加させる可能性があるとした。さらに「協力の機は熟した」として、地方政府による支援があることを指摘した。

四川省におけるこの分野の投資は、将来ゼスプリが関与するか否かにかかわらず継続する。政府の取り組みには成都市周辺の9つの農業パークが含まれ、これらは研究とインフラに焦点を当てている。同市には試験施設もあり、同位体技術やクロマトグラフィー技術を用いて果実の品質及び産地の分析を行うことができる。

ヤン氏の会社は、合わせて650万箱の処理能力を持つ隣接する2棟の梱包施設を完成させ、さらなる拡張を計画している。

出典: FarmersWeekly

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)